



令和2年8月6日(木) 第13号



## 「8月6日」のこと



8月に入ってから1学期が続いているのは異例のことです。しかも、コロナの影響だということを見ると、何をしても憂鬱な気分になってしまいます。しかし、どうせなら長引く1学期も前向きに、これも【学習の機会】だと考えたいと思います。そこで、今回の学年だよりは、今日「8月6日」のことを話したいと思います。原爆の話です。



1945年(昭和20年)8月6日午前8時15分、広島市の上空600mで、原子爆弾が炸裂しました。その数年前から実験が重ねられて開発された「核兵器」が、世界で最初に殺傷を目的として使用された瞬間です。爆心地付近は鉄やガラスも溶けるほどの高熱にさらされ、遺体さえも焼き尽くされたといわれます。半径2kmは建物のほとんどが焼き尽くされました。当時の広島市の人口は34万人といわれますが、その年のうちに14万人が亡くなったと推定されています(諸説あり)。その後も、命はあったものの後遺症に苦しむ人や、原爆による放射線の影響で白血病やガンに罹って苦しむ人が多数いました。大やけどの人や、見るからに重傷の人が亡くなるのはそれまでの空襲でも見られましたが、このときは、無傷で元気だった人がある日突然髪の毛が抜け始めたり、体調が悪くなって亡くなったりして、当時「原子爆弾」というものを知らない人々も、その悲惨な状況を前に「異常なことが起きている」という認識をもち始めました。なお、それから3日後の8月9日午前11時2分には、長崎市に原子爆弾が投下され、同様の被害が出ています。



「なぜ日本だったのか?」、「なぜ広島と長崎だったのか?」というのはよく議論されているテーマですが、いずれも諸説あり、正解はわかりません。原子爆弾を使用した目的としては、「アメリカ軍が新しく開発した爆弾の威力を試すための“実験”をした」、「戦争を早く終わらせるために原子爆弾を使用した」、「世界にアメリカの軍事力を誇示するために使用した」などともいわれています。戦争のことを学んでいくと、戦争をビジネスのように考える話や、人を人とも思わないような価値観に出会い、“虫酸が走る”気持ちになるのですが、戦争の醜さを知ること、平和学習のひとつであると考えて、頭の引き出しに入れておこうと思います。



## 「戦争」と「平和」を考える



キミは、【模擬原爆】というものを知っているでしょうか? アメリカ軍は、原爆を使用する2週間前から、重さや形が原爆と似ている爆弾(5トン爆弾)を使って、原爆を投下するときの軌道や傾向を掴むための情報を集めていた、つまり、原爆投下の訓練をしていたのです。「どこで投下すれば目標の地点に原爆を落とせるか」、「投下した後、どうすれば素早くその場から離れられるか」など、それは“練習”であり“実験”でもありました。しかも、それは、この大阪市でもおこなわれていたということです。結果として、アメリカ軍は2週間で日本全国に50個近い「模擬原爆」を投下していたそうです。しかも、日本が8月14日に降伏して戦争が終わるときに、その「模擬原爆」は50個以上残っていたそうです。もしも戦争が終わっていなければ、それらは使用され、日本のどこかに3個目の原爆が落とされていたかもしれません。



小学校でも中学校でも、学校では【平和学習】の取り組みがあります。それでも、時間の経過とともに戦争の記憶が風化しつつあります。戦争を経験している人が少なくなり、やがていなくなるのは仕方がないにしても、【平和学習】の大切さは変わりません。平和学習の結論を突き詰めれば、「戦争はダメだ」「平和が大切だ」ということになります。すでに平和学習をしてきたキミたちも、そのように考えていることだと思います。ただ、「なぜ戦争はダメなのか」という質問にはどのように答えるでしょうか? もちろん「人を殺すことだから」・「たくさんの人が死ぬから」という意見が多いと思います。ちょっと難しい表現をすれば「人権侵害だから」というのも拳がりそうですね。どれも正しい答えではありますが、何歳になっても同じことしかいえないのは、少し残念です。たとえ結論がひとつでも、そこにたどり着くまでの道は、いくつも知っておいた方がたくさんの人に気持ちを伝えることができます。【平和学習】に終わりはないのです。



せっかく8月6日に学校にいるのなら、原爆の話をしてほしいと思って学年だよりを作りました。この時期、テレビでも戦争を扱った番組がたくさん放送されます。たとえば、名作「火垂るの墓」や「この世界の片隅に」といった映画だけでなく、ドキュメンタリーの番組もぜひ見てみてください。また、機会があれば、自分の意志で広島や長崎や沖縄に足を運んでください。そして、身近な人にその感想を話し、思いを共有してください。何歳になっても、そのときの【平和学習】はあります。

### 保護者のみなさまへ

子どもたちと一緒に戦争の話をするというのはどうでしょうか。彼らは確実に成長しています。いろんな話をしている中で、意外なほど“オトナ”の意見をいうこともあります。この機会に、ぜひ一緒に映画やテレビ番組を見て、戦争や平和の話をしてみてください。新たな気づきがあると思います。さて、1学期も残り1日、しっかり締めくくりたいと思います。

